

子どもやっさに参加したチームに追跡取材!

三原のすべての子どもたちがやっさ祭りに出場するためには…

出場チームに取材!

本年度当会議所では「三原に郷土愛と一体感を深めるためには、やっさ踊りが有効な手段となりえるのではないか」と考え全小学校のやっさ祭り出場へ向けて行動してまいりました。

第33回三原やっさ祭りでは新設された「子どもやっさ部門」に、新規4チームが加わり、合計8チームがやっさ祭りに出場し、全小学校の4分の1の出場という結果となりました。目標に向けて大きな一歩をふみ出しましたが、残念ながら全校出場には至りませんでした。

すべての子どもたちへ「やっさ踊り」をどのように伝えてゆくか、生の声を反映させて解決方法を検討してゆくために、今回出場したチームに取材を行いました。



質問

1

「子どもやっさの部新設」について、具体的に良かったこと・悪かったことを教えてください。また、子どもやっさの部を新設したことによって、出場しやすくなったと思いますか？

糸崎小

●子どもたちが小学校という同じくくりで踊ることができ、それに対して評価されるということは、とても良いと思う。

●時間帯が早かったため、明るいうちに踊り終わり、安全面としては良かった。

●練習の中で、親子・家族のふれあいができた。

●参加者が昨年度より増加し、三原やっさ祭りや学校の教育活動への関心が高まった。

●やはり、時間帯が早かったため、暑かった。

西 小

●子どもの部で表彰されて、子どもも保護者も関係者もとてもうれしかったし、やりがい



にもなった。また、子どもたちがいる前で表彰式が行われ、自分たちの学校の名前が呼ばれることで、子どもたちが自分たちの踊りがよかったですを理解しやすかった。

三原小

●時間帯が早く終わるので、保護者にとってはよかったです。

●子どもやっさの部だけで終わるのは少しあしかった。やはり保護者や地域の大人と一緒に踊ったほうが楽しいと思う。

●出場しやすくなったかという質問に対しては、良くも悪くもまったく変わらないと思う。

八幡小

●子どもたちが、子どもたちだけで参加することで、高学年が低学年をサポートするなど子どもたちだけで一体となれたことは、とても良かったと思う。

●今までより、バスの手配・時間設定などに配慮があり、十分に子どものことが考えられており良かったと思う。



みたかきいたか

北京オリンピック(五輪)の競泳で二大会連続二冠を達成した北島康介選手が「一日教師」としてある小学校を訪れた。授業は「夢」について。北島選手は小学校6年生の時に「五輪で金メダルをとる」と将来の夢を描いていた。「夢は叶えるためにあるんだよ。だから僕はつらくても

毎日の積み重ねを大切にし、投げ出すことはしなかった」と北島選手。また「大きな夢をもち、あきらめずに、最後まで頑張ることが何よりも大切」とアドバイス◆現代の教育は、子どもが夢を持ちにくい環境になっているのではないだろうか。教育に関する様々な不祥事が毎日のように報道されているが、現場でまじめに命をかけて教育に従事されている先生方を思うと非常

に残念である。子どもたちが夢をもち、まっすぐに力強く育んでゆける教育環境を望む◆改善という言葉が、英語の辞書にも載っている。現在の状態に満足せず、常に改善、前進してゆくことが大切である。天才は99%の汗と、1%のインスピレーションからできているとエジソンは言った。インスピレーションの大切さは言うまでもないが、その考え方の上に更に改善を積み

重ねる人こそが、本物の天才なのだろう◆未来は不確定で、明日何がおこるか誰にも分からない。それは、この世に存在しているあらゆるもののが変化し続けているからだ。昔はその真理を“無常”という言葉で表現した。教育基本法が改正され、その中に地域と家庭の役割が新しく明記された。三原市においても学校、地域、家庭がスクラムを組み教育環境の改善・活性化を望む。